

『ボールはこう通るはずだから』 5歳児 7月 伏見こども園

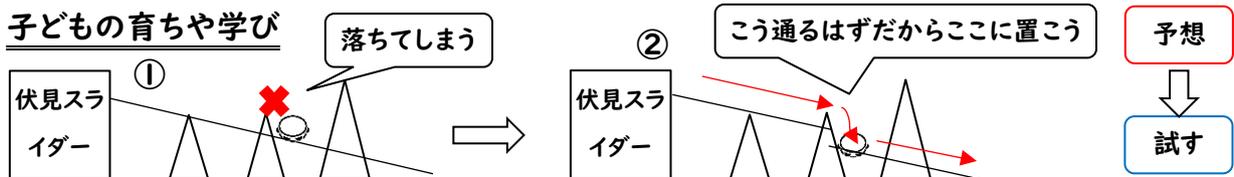


エピソード

今日の転がしのコースは伏見スライダーから転がすことができるように A 君がトイを繋げていました。そこへ B ちゃんがやってきて、タンバリンをコースに置こうとしました。最初は一直線に繋がったトイの上に置いてみましたが、不安定で置くことができません。B ちゃんはコースを見て、脚立の段差を利用してトイを二段に組み替えて「(ボールが)こう通ってくるはずだから…」と、指をさして転がるボールの軌道を予想しながら「ここに置こう」と、タンバリンを置きました。A 君が伏見スライダーの上から「転がしていい?」と聞くと、B ちゃんは「ちょっと待って」と、何度もコースとタンバリンを交互に見て、ボールが転がってくる様子を予想して、タンバリンの置く場所を調整していました。

B ちゃんが「いいよ」と言って A 君がスーパーボールを転がすと、タンバリンには当たりましたが跳ねてコースから外れてしまいました。続けてビー玉を転がすと、思っていた音が鳴ってコースの最後まで転がり「鳴った!」と喜び、何度も転がしたり、タンバリンを置く場所を少しずつ変えたりして楽しんでいました。

子どもの育ちや学び



- ・コースの繋がりからボールの軌道を予想し「ここを通るはずだからここに置く」と、タンバリンを置く場所を考えて調整していました。
- ・「転がしていい?」「ちょっと待って」と声を掛け合い、転がす、タンバリンを調整するという役割分担が生まれ始めていました。
- ・スーパーボール、ビー玉の硬さや重さ、素材の性質の違いによる転がり方の違いに気付いていました。

保育者の思い

- ・繰り返し遊んでいる転がしのコースづくりですが、「伏見スライダーから転がしたい」と、いつもと向きが反対になっていたのので、今日はどんなコースになるのか楽しみでした。
- ・いつもは違う遊びをしている B ちゃんが来たことで、遊びに新しいアイデアや刺激が加わってくれるとうれしいなと思いました。
- ・遊びの振り返りで写真や動画を見て、コースの話をしていたので、B ちゃんがコースを見てボールの軌道を予想してタンバリンの置く場所を考えることにつながっているのかなと思いました。

家庭だったら・・・

- ・生活の中でも「これをしたらこうなる」と予想しながら行動している姿も増えてきているのではないのでしょうか。遊びの中の「予想→試す、確かめる」といったことが生活の中で見通しをもつことにも繋がっていくと思います。